

【今月の目次】

- 1.生成 AI の活用について
- 2.ICT 活用ワンポイント講座（作業効率を高めてくれるショートカットキー5選）
- 3.コラム「校務 DX に向けたホップ・ステップ・ジャンプ！！」



1.生成 AI の活用について

質問です！あなたは「生成 AI」活用していますか？

最近、私たちの周りでは生成 AI を利用したことがある人が増えているように感じます。生成 AI の社会への普及は目覚ましく、その影響力も増しています。今回は、「生成 AI」の学校での活用について考えてみたいと思います。

生成 AI は、プロンプトを入力すると、AI が学習した大量のデータをもとに、有用性の高い回答を示してくれたり、AI との対話を通じて優れたアイデアを導きだしたりすることも可能です。一方で、生成 AI が作成する情報やコンテンツには、著作権などの権利を侵害するリスクもあります。生成 AI を活用することのメリットやデメリットについて、さまざまな方面から指摘があり、私たちも知っておく必要があります。

文部科学省では、学校関係者が生成 AI の活用の適否を判断する参考資料として「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」を公表しました。このガイドラインは、生成 AI の活用を一律に禁止するものではなく、また義務付けるものでもありません。

生成 AI は、あたかも人間と自然に会話しているかのような応答や情報の収集・整理・分析結果等の出力が可能で、様々な利活用が広まっており、業務の効率化に大きく寄与しています。そのような状況を踏まえて、実際に私たちも ICT 教育支援センター内で生成 AI の研修を実施し、その活用や仕組みについて学ぶ機会を持ちました。また、これまでに教育関係者から校内研修等の依頼を受け、「生成 AI の概要や校務で利活用」などについて紹介させていただいております。研修をとおして、「生成 AI を使っているのか分からない」、「怖さがある活用が踏み込めない」など、活用することに足踏みしている方が多くいることを実感しました。

AI 時代を生きる子供たちが生成 AI をはじめとするテクノロジーをツールとして使いこなし、一人一人の才能を開花できるようになることは重要であり、生成 AI の学校での利活用は、そのための助けになり得るものです。まずは、先生方が試してみることで、新たな視点での学び、本質的な学びの展開が期待できると思います。

なお、ICT 教育支援センターでは、今年度も生成 AI に関する校内研修等の講師として、担当指導主事の派遣を受け付けております。生成 AI について、何から始めたらいいのか？安全面は大丈夫なのか？など、ご要望に応じた研修の実施が可能です。校種を問わず随時募集をしておりますので、お気軽にお問合せください。

参考：「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン（Ver.2.0）」文部科学省初等中等教育局 令和 6 年 12 月 26 日

https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_02412.html



2. ICT 活用ワンポイント講座（作業効率を高めてくれるショートカットキー5選）

日々の校務などの作業効率を高めるためには、ショートカットキーを使いこなす事は重要です。特に準備や資料作成の時間が限られているときに、これらが大活躍します。

以下、教育現場で「これはすごい！」と感じるショートカットキーを5つ紹介します。

1. Ctrl + Z（元に戻す）

→ うっかりミスしても即修正可能。授業資料作成時の命綱！

2. Ctrl + Y（やり直す）

→ 戻しすぎてもこれで復元。細かい作業に安心感をプラス。

3. Ctrl + F（検索）

→ 教材の中から特定の語句を瞬時に探せる。指導案チェックに便利！

4. Ctrl + Shift + T（閉じたタブを復元）

→ 閉じたページを「しまった！」と思った瞬間に救ってくれる救世主。

5. Ctrl + P（印刷）

→ 印刷指示が秒速で出せる。朝のバタバタタイムに神の一手！

いかがでしょうか？すぐには使えなくても、「これがショートカットキーでできる！」と知っていれば便利なものもあるのではないのでしょうか。ぜひご活用ください！



3. コラム「校務 DX に向けたホップ・ステップ・ジャンプ！！」

今回で3回目となる「校務 DX」に向けた情報発信ですが、「見直したい業務は分かったけど、どんなツールを使ったらいいの」と思いませんか？今回は、ツールを活用するための第一歩。

明日からできるグループウェア活用法、そのヒントは！？

何を使ったら良いのか分からないということで悩む方が多いかと思います。その解決策の一つとして、各自治体で導入しているグループウェアの活用を提案します。グループウェアとは、Google Workspace for Education™、Microsoft 365 Education などの情報共有のためのアプリケーションソフトウェア（連絡や予定の共有などに使えるツール）です。標準仕様に含まれるソフトウェアとクラウド環境の活用により、校務に関する連絡・予定管理・アンケート調査などの業務負担の軽減が可能です。ただし、自治体ごとに操作に必要な権限や運用のルールは異なりますので、ご注意ください。

また、文部科学省が公開している「全国の学校における働き方改革事例集（令和5年3月版）」の「Part 3 明日からできるグループウェア活用法」には、すぐに使用できるフォーマットも掲載されていますので、ご一読ください。

参考リンク：全国の学校における働き方改革事例集（令和5年3月改訂版）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/hatarakikata/mext_00008.html



おまけ いまさら聞けない用語解説

今月の用語「ハルシネーション」

生成 AI は事実に基づかない誤った情報をもっともらしく生成することがあり、これをハルシネーション（幻覚）と呼ぶ。技術的な対策が検討されているものの完全に抑制できるものではないため、生成 AI を活用する際には、ハルシネーションが起こる可能性を念頭に置き、検索を併用するなど、ユーザーは生成 AI の出力した答えが正しいかどうかを確認することが望ましい。【出典：令和6年度版情報通信白書（総務省）】

ICT 教育支援センターでは、各校で取り組んでいることや取り組もうとしていることへの支援に加えて、ICT 機器やソフトウェア、ネットワーク等に関する相談支援や学校訪問など随時対応しております。校内研修や研究会において、ICT 教育支援センターを活用していただきたいと思っております。お気軽にご相談ください。

山梨県総合教育センター ICT 教育支援センター

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田 1456

TEL:055-262-5508（直） /FAX:055-262-5572

お問い合わせは[こちらへ](https://forms.office.com/r/wyuB8BRNg2) <https://forms.office.com/r/wyuB8BRNg2>

バックナンバーは[こちら](https://www.ypec.ed.jp/?page_id=6492) https://www.ypec.ed.jp/?page_id=6492